



VPR08-025

2008年5月28日(水)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン、三洋電機と高性能電池を開発

【ウォルフスブルグ、2008年5月28日】

フォルクスワーゲン グループは充電可能な電池技術において世界的リーダーである三洋電機株式会社と次世代高性能リチウム・イオン電池の開発提携について合意しました。

この提携について、フォルクスワーゲン グループ会長Dr.マルティン ヴィンターコルンは「フォルクスワーゲンは内燃機関のエネルギー効率の向上に加えて、電気駆動自動車の開発も今後ますます重視していきたい」と述べています。「将来のモビリティを確保するにあたり、エネルギー回生を含めたパワーtrainの電気化の道を進むことは確実です。ただし、エネルギーを効率よく充電できる電池と、お客様のニーズを満たす走行性能は、この道を進むには不可欠です。今回の提携はフォルクスワーゲンにとって重要な一歩として受け止めています」とさらに同会長がコメントしています。

排気ガスを発生させない純粋な電気駆動車両での移動は現在既に可能となっています。しかし、最高速度や走行距離に関する制約があるため、容量、大きさ、重量やコストが最適化された新型電池の開発は将来の電気自動車の効率向上に不可欠となっています。現在既に電子通信技術やノート型パソコンなどに採用され、高く評価されているリチウム・イオン技術には、今後クルマの電気駆動システムとして要求される条件を満たす可能性が十分にあります。

フォルクスワーゲンは今年3月にジュネーブ モーターショーにて「ゴルフ TDI ハイブリッド」コンセプトカーを発表し、最新のディーゼルエンジン、電気モーターおよび7速DSGを組み合わせたことから可能となる燃料消費の削減を証明しました。TDI エンジンと電気モーターの組み合わせによるこの高性能のフルハイブリッドカーは、内燃機関のみでの駆動モード、エンジンとモーターが役割分担するモード、あるいは純粋な電気駆動モードのいずれにおいても高性能と低燃費を両立させています。

また、アウディが昨年の東京モーターショーでお披露目したコンセプトカー「A1 project quattro (エーワン・プロジェクト・クワトロ)」は最新の電池技術を採用したことで100kmの走行距離を実現できます。リチウム・イオン技術を搭載した最初のフォルクスワーゲン グループによる生産車は2010年頃の実現される見込みです。